

宗教法人 カトリック札幌司教区

CATHOLIC BISHOP'S RESIDENCE
10 HIGASHI 6 CHOME KITA 1 JO
CHUO-KU, SAPPORO, 060-0031 JAPAN



カトリック札幌司教館
〒060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10
TEL 011-241-2785 FAX 221-3668

2018年2月16日

札幌教区の小教区・修道院・諸団体 各位
信徒・修道者・司祭の皆様
ボランティアに参加された皆様

カトリック札幌司教区
司教 勝谷 太治

これからの東日本大震災被災地 宮古市でのボランティア活動について

“仮設住宅などへの訪問支援活動終了のお知らせと これまでのご支援への感謝を込めて”

2011年3月11日に起こった大地震と津波による被害は東北地方を中心に未曾有の被害を及ぼしました。この天災により多くの人命が失われ、また福島第一原発などで現れた人災は、核エネルギーに対する警鐘を全世界に鳴らしました。日本カトリック司教団は10年間に渉る支援を決定し（窓口となる仙台教区各被災地へのヒ・モ・ボ・キ支援）、長崎・大阪・東京の3教会管区による8つのカリタスボランティアベースを置いて被災者に寄り添う活動を継続しているところです（この春で長崎管区の大槌ベース、さいたま教区のいわきベースは終了します）。

札幌教区でも2011年3月末に被災地支援募金を始め、4月7日からはボランティアの第1陣を北海道から近い宮古市（山田町を含む）に送り、現在に至るまで489人（活動日数に関わらず、氏名の計）、1人1日換算で7270人・日（1人一日の活動を1単位とした総計）の多くのボランティアの参加を頂いて、被災者に寄り添う活動を続けてまいりました。この7年間の皆様からの温かいご厚志に感謝いたします。皆様の祈りに支えられて、札幌カリタス（被災地での団体名）は、力は弱くとも長期間の関わりを継続し、神の名は出さずとも神の愛に動かされ、悲しみや不安を超えて希望を見出そうとする被災者のかたわらに寄り添い、神の慈しみの眼差しに触れる出会いがあったことと思われまます。

2018年4月から8年目に入る支援活動は、規模を縮小しますが別紙のように現地教会信者の皆さんと協議してきた内容を札幌教区サポートセンターからお知らせし、これまでの支援への感謝の意を表させていただきます。誠にありがとうございました。

宗教法人 カトリック札幌司教区

CATHOLIC BISHOP'S RESIDENCE
10 HIGASHI 6 CHOME KITA 1 JO
CHUO-KU, SAPPORO, 060-0031 JAPAN



カトリック札幌司教館
〒060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10
TEL 011-241-2785 FAX 221-3668

◆札幌教区サポートセンターより

1. 2016年に毎週から隔週へと活動日数を減らしましたが、宮古市社会福祉協議会の考えもあり、その意向に添うように宮古市周辺での活動を、2018年4月からさらに月一週(4日間ほど)に縮小します
2. 札幌カリタス主導の活動を、盛岡3教会と宮古教会信徒との協働の支援活動とし、仮設住宅や復興公営住宅集会室への訪問を終え、宮古教会を会場とする集まりに移行します
3. まだ支援を要請されている山田町と岩泉町への訪問支援は継続します
4. 札幌教区サポートセンターが窓口の「東日本大震災被災地支援募金」を終了します
5. ボランティア募集を終了します。(注1) これに伴い、宮古ボランティア後方支援部と世話人会も一旦終了します。(注2)

(注1) ボランティア希望の問い合わせがあれば、宮古にとどまらずカリタス南相馬ベースなど希望に応じて紹介と相談に応じさせていただきます。

(注2) 小規模ではあっても支援活動の後方支援グループは必要となるので新たにメンバーを呼びかけます。

6. 例年、札幌教区サポートセンターが主催していた“3・11 追悼と復興祈願ミサ”(会場：札幌・北1条教会など)は、今年は宮古教会で行うため(注3)、札幌教区では呼びかけませんので、各教会での祈りをお願いします

(注3) 毎年このミサと報告会などの行事を準備していた後方支援部と世話人は、宮古教会での3・11追悼ミサに参加し、前後4日間、これまで訪問した仮設の皆様との「さよならカフェ」を実施し、4月以降の支援の大幅な変更(宮古教会への紹介など)をお知らせすることになりました。ご理解よろしくをお願いします。